

先天異常モニタリングシステムに関する 総括的研究（まとめ）

分担研究者 小西 宏

研究協力者 芦沢正見 遠藤 晃 黒木良和

高島敬忠 谷村 孝 松井 一郎

安田徳一 柳川従道

本年度は2回のシステム班班会議（62.10.17および63.1.30）と1回の実地調査班との合同班会議（63.2.26）を開催した。

前年度かかげたシステム班の研究テーマのうち、特に異常事態への対応システム、先天異常モニタリングにおけるプライバシー保護、無脳症発生頻度の経時的変動、多発奇形のモニタリングなどについて研究をすすめた。モニタリングにおけるプライバシー保護については総合討議および個別研究を踏まえて中間報告がまとめられた（柳川）。奇形発生の経時的な傾向を明らかにするために安田は、神奈川班における無脳症を例に各種統計的手法を用いて検討し、無脳症の出生は減少傾向を示していることを明らかにした。黒木は多発奇形をモニタリングで取り上げることの重要性を指摘し、そのために正確な診断が不可欠であるとした。直接診察に近い効果が期待できる画像情報通信システムの開発について中間報告がなされた。以上の三研究の詳細については、別に報告されているので、ここでは、異常事態への対応システムについてまとめることにする。

先天異常モニタリングにおける異常事態への対応

先天異常モニタリングの定常業務は、奇形発生状況の継続的な監視である。通常それぞれの奇形は一定の頻度で自然発生している。しかしまれに異常事態が発生することがある。そのような場合にモニタリングシステムがいかに正確にしかも迅速にそれに対応できるかが、成否のカギを握っている。

そのためには、異常事態への対応システムをいつでも活動できるよう整備しておく必要がある。異常事態の発生から行政対応に至る業務の流れを図1に示した。

1. 異常事態 (Unusual events) の定義

異常事態とは、単発奇形または既知の奇形症候群の発生が統計的有意の変動を示す場合または未知の多発奇形や奇形連合の新たな発生が認められた場合をいう。

2. 異常事態への対応

統計的に有意の変動があっても、真の異常事態と即断してはならない。まず明らかな人工産物による偽の変動を除外することから始める必要がある。診断基準の変更がなかったか、現場の医師等の関心度の変化はなかったか、システムは変わっていないか、妊婦の年齢分布や産児数に変化

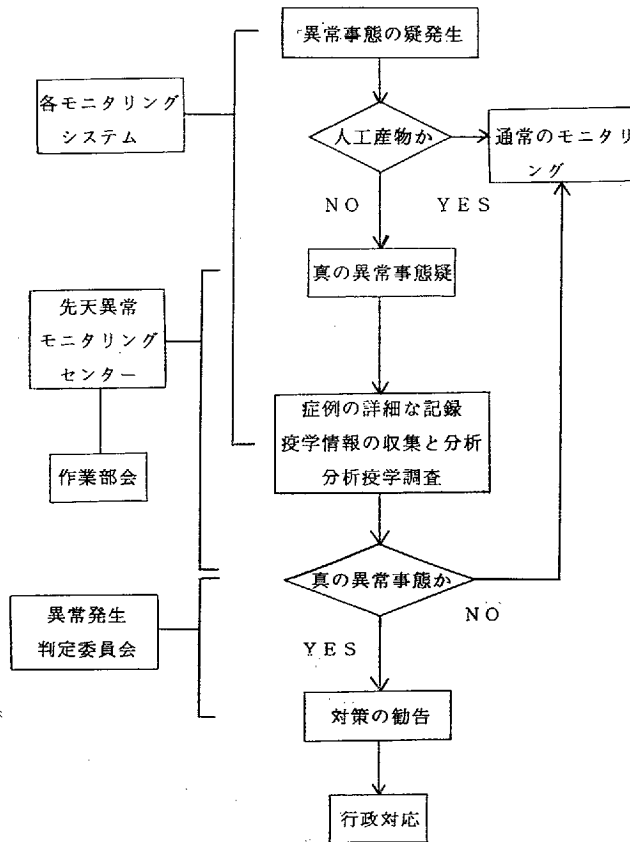


図1 異常事態への対応

はないか、出生前診断の影響はないかなどをまずチェックする。同時に他のモニタリングプログラムでの動向を調べることも重要である。人工産物が除外できれば真の異常事態が疑われることになる。この時点で疫学調査が不可欠となる。まず記述疫学から開始し、できるだけ詳細な関連情報を収集し分析する。この段階は各モニタリングシステムが行うが、異常事態の重大さによっては先天異常モニタリングセンターの助言を必要とするかもしれない。疑わしい要因が浮び上がってくれば、分析疫学へとすすめる。いわゆるケースコントロールスタディーおよびコホートスタディーの実施である。重大さの程度にもよるが、先天異常モニタリングセンターが、疫学調査の企画段階から参加するほうが望ましい。結論を出すには慎重な調査が必要ではあるが、可能な限り早期に一応の決着をつけることが重要である。この段階では作業部会が疫学調査を当該モニタリングプログラムと協力して遂行する。もちろん結論を出す過程の中心は異常発生判定委員会である。

対策の勧告までがモニタリングの行うべきことで、それを受けて行政が高度の判断を行い行政対応することにより異常事態が終息することになる。勿論以上述べたのは理想的な流れであり、このようにスムーズに事が運ぶことは少ないであろう。今後モニタリングセンターや判定委員会の構成や機能および運営法等について十分検討しなければならない。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本年度は2回のシステム班班会議(62.10.17 および 63.1.30)と1回の実地調査班との合同班会議(63.2.26)を開催した。

前年度かかげたシステム班の研究テーマのうち、特に異常事態への対応システム、先天異常モニタリングにおけるプライバシー保護、無脳症発生頻度の経時的変動、多発奇形のモニタリングなどについて研究をすすめた。モニタリングにおけるプライバシー保護については総合討議および個別研究を踏まえて中間報告がまとめられた(柳川)。奇形発生の経時的な傾向を明らかにするために安田は、神奈川班における無脳症を例に各種統計的手法を用いて検討し、無脳症の出生は減少傾向を示していることを明らかにした。黒木は多発奇形をモニタリングで取り上げることの重要性を指摘し、そのために正確な診断が不可欠であるとした。直接診察に近い効果が期待できる画像情報通信システムの開発について中間報告がなされた。以上の三研究の詳細については、別に報告されているので、ここでは、異常事態への対応システムについてまとめることにする。